

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1～4学年・集中	1～4	1	選択（教職選択）
担当教員			
富田 寿人・村野 直弘			
添付ファイル			

講義概要	スキーおよびスノーボードの基礎的な理論および技術を身につけ、ウィンタースポーツの特質について理解を深めることを目的とする。あわせて、集団生活の体験や相互の親睦を図る。 授業は実技レベル別にクラス編成をし、それぞれのクラスに指導者が付いて指導を行う。指導者の判断によってクラス変更が行われることもある。評価は最終日の実技テストおよび実習中の上達度などを参考に担当指導者が行う。
授業計画	1-3 一日目午後 到着 滑走技能判定およびクラス分け・・・1コマ マクラス別レッスン・・・1コマ、講義1コマ 動きの確認についてAL①を行う 4-8 二日目午前および午後 クラス別レッスン・・・4コマ、講義1コマ 動きの確認についてAL①を行う 9-13 三日目午前および午後 クラス別レッスン・・・4コマ、講義1コマ 動きの確認についてAL①を行う 14-15 四日目午前 クラス別レッスンと実技テスト・・・2コマ マ午後出発 動きの確認についてAL①を行う
授業形態	実技（技能によるクラス編成で実習を行う） アクティブラーニング：①：4回，②：2回，③：0回，④：0回，⑤：0回，⑥：0回
達成目標	1. スキー、スノーボードの基礎的な理論と技術の習得ができた 2. 集団生活のルールの遵守ができた
評価方法・フィードバック	実践活動50点、取り組み20点および理論と技術の修得度30点として評価する。フィードバックとしては、実技中または実技後に技術指導を行う。
評価基準	評価点が100～90点で目標2項目達成であれば「秀」、89～80点で目標2項目達成であれば「優」、79～70点で目標2項目達成であれば「良」、69～60点で目標2項目達成であれば「可」、59点以下であった場合は「不可」とする。
教科書・参考書	なし
履修条件	なし
履修上の注意	履修登録および評価は、翌年度前期に行うこととする。 宿泊代、交通費（バス代）、リフト代など約4万円が別途必要となるので、注意して欲しい。 詳細を10月に掲示・説明会をし、参加希望調査を行う。12月、1月には事前授業を行う。
準備学習と課題の内容	事前に滑走技術やマナーなど、実技に関する知識を学習しておくこと。（予習復習それぞれ1.5時間程度）
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解：20％，思考・判断：20％，関心・意欲：20％，態度：10％，技能・表現：30％
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	